

事務連絡表

件名	第3回「東大路通歩行空間創出推進会議」
日時	平成24年8月3日（金） 11時00分～12時00分
場所	東山区役所大会議室（3階）
● 開会 ～堀池交通政策監あいさつ～ ● 議事 ～議長あいさつ～ 今回から委員になられた方もおられるので、これまでの経緯を説明する。東山地区では、これまで、ソフト事業として観光地交通対策を9年間行ってきたが、ハード整備の必要性について地元の方から強く意見が出されてきたため、平成22年度から「歩いて楽しい東大路をつくる会」を設立し、「「歩いて楽しい東大路」整備基本構想」というものを取りまとめた。今年からは、京都市の会議体として、「東大路通歩行空間創出推進会議」を設置し、4月の会議では、「東大路通整備構想」の素案を取りまとめ、5月から6月までパブリックコメントを行ったところである。 今日の会議では、パブリックコメントを踏まえ、事務局で修正された「東大路通整備構想」を確認し、取りまとめていくものである。 (1) 市民意見募集（パブリックコメント）の結果について ～資料1説明～ (議長) 私もパブリックコメントを行う案件にいくつか関わってきたが、1,684件というのはかなり多い。概ね歩道拡幅は行うべきであるという意見が多いが、渋滞や荷捌きなどの問題点も提起されていた。 議論は、整備構想についての説明を事務局から続けて受けた後に、一括してご意見、ご質問をいただきたいと思う。事務局から説明をお願いしたい。 (2) 「東大路通整備構想（案）」の取りまとめについて ～資料2説明～ (地元代表) パブリックコメントは、東山区からの意見が33%、その他が67%となっている。住民の意	

見を尊重するということだが、東山区が 3 割しかない中で、今後の整備構想に対する地元の意見を受け入れる姿勢をどのように考えているのか。

(事務局・中島課長)

東大路通は、東山区の生活道路ということは言うまでもないが、市内の他の区の方にとっても幹線道路であるため、市全体の意見を聞きながら、整備を進めていくべきであると考えている。また、推進会議は今回で終わりではなく、実現に至るまでご意見を頂戴し、地元の皆さんとともに実現に向けて頑張っていきたい。

今回のパブリックコメントで、全体の 7 割の方から賛同意見をいただいております、その中には東山区以外の方も含まれていることを確認でき、今後、我々も自信を持って進めていくことができる。一方で、事業の実施に当たり、様々な課題が見えてきたことも今回のパブリックコメントの成果である。

(地元代表)

事業の実施に当たっては、住民を優先していただきたい。車線の減少や歩道の拡幅は物理的に難しい問題であり、単純に 1 車線にするという考え方では困る。

(事務局・中島課長)

通過交通をどのように分散、誘導していくのか、今後、シミュレーション等で検討を深めていきたい。東大路通は皆さんの生活道路としても使われるため、安心・安全な歩行空間の確保ということで進めてまいりたい。

(議長)

日常的に道路を活用される方と、たまにしか来ない観光客の方々の意見の重みは違うと考えられる。

(副議長)

「整備を行うべき」という 70%と「安全に通行できていると思わない」という 74%という数字は非常に微妙な数字である。これから、地元の方や市民の理解を得なければいけないが、賛同いただいていない人が少なくなく、パブリックコメントの資料は十分に説明できていない。

例えば、地域の人のご意見を個別にみるなどの分析をした方がいいのではないかと。

また、市民合意を得ることが必要であり、どのように理解いただくかを考えるべきである。東大路通は通過交通が多く、これまで、地元の皆様にご迷惑をおかけしてきたので、そろそろ地元にお返しする時期に来ていると思う。例えば、14mの幅員で4車線であるが、道路構造令を満たしておらず、ほとんど違法状態である。地元の不自由をおかけしていることをもう少し強く言っていないといけない。地域の合意と交通安全についてどう進めるのか考え方の整理が必要だと思う。

(議長)

高齢者で車を利用されない人の賛同が多い一方で、ホームページでは4割が反対されているなど、単純集計だと強弱が見えなくなる部分がある。これから住民の方にお返しする際にはデータが見えやすいように工夫をお願いしたい。

また、整備構想案については、これまで十分に議論し、皆さんの意見やパブリックコメントを踏まえて修正されている。今後、住民の皆さんや事業者の皆さんと密に議論しながら計画を作っていくと思うが、ご意見をお聞きしたい。

(地元代表)

平成3年11月当時のまちづくり審議会では、区長が委員会を立ち上げ、その際には「東大路は交通の大動脈にしよう」ということで、「歩道を両方確保することは無理だろう」ということであった。この考え方が変わってしまい、車道も歩道も両方やるということについて、個人的に、よくわからなくなってきた。

「駐車場を持っていないなら墓地を売るな」、「観光客に、車で来ないように寺でも広報する努力をすべき」などと厳しいことを言われており、寺側も努力する必要があると思う。高台寺では、定期観光バスを減らしたものの、結局、高台寺の駐車場を観光協会で使っており、一向に減ることにならない。三十三間堂などの史跡名所の問題点がある。これから膨らむ需要について、「東大路以外の歩く道路を考えるべきではないか」と思うが、これも見えてこない。円山公園は観光の中心であり、交通の大動脈が止まってしまっている。集会等があると周辺は車で一杯になり困っている。祇園町については、タクシーが二重駐車している。

商店にも問題がある。荷捌きは、「10時ごろまで」または「夕方以降」と希望しているが、できない場合は、荷捌きが終わり次第、速やかに移動してほしいと考えている。

大学生も、歩道を自転車で走行しており、運転のマナー向上の努力が必要である。

寺、町、商店、大学、病院（日赤）みんなが努力をする意識を持たないとこのような問題を解決できない。行政に要望する前に、我々ができることからやっていくようにしたい。

(議長)

今日は、整備構想案の取りまとめということでご理解いただきたいが、先ほどのご意見は、今後、調整をしていくべき課題ではないかと考えられる。過去の経緯として、平成3年は、京都市の新基本計画が作られた頃で、ちょうどバブルの絶頂期で、車に関しても寛容

だったと思うが、2000 年代に入り「歩くまち・京都」ということで、「むしろ車を入れていかない、人間を中心としたまちを作っていく」という転換が行われたのだらうと私は理解している。このような流れの中で考えていただければありがたい。

(地元代表)

東大路を改変すると他の道路の状況に影響が生じる。東山区全体の道路のことを考慮に入れながら東大路をやるという認識を持っていただけるのか。

(京都市都市計画局歩くまち京都推進室土木技術担当部長・中村委員)

今回、東大路通の整備構想を提案させていただいているが、この整備を推進するにあたっては、東大路通だけを捉えるのではなく、東山区全体を面として捉え、東大路通の道路の断面構成を変えれば周辺の交通にどのような影響が出るのかしっかりと調査し、推進会議で皆さんにお示ししてご意見をいただきながら進めていきたいと考えている。決して東大路通だけのことで進めていこうとは考えていない。

(議長)

東山区民の 8 割の方々は、車線の減少も含めた歩道の拡幅の検討を開始することを認めてもらっている。ただし、パブリックコメントや本日のご意見を踏まえた形で、渋滞対策や川端通等の周辺道路のあり方、京都市を全体的に見ていくというような視点、あるいは荷捌き問題等を含めた検討が必要である。今後、「東大路通整備構想」を策定し、測量、調査、そして予備設計を行っていく。今後も、推進会議の開催や地元の皆様や関係機関との協議を行い、道路整備に向けた合意形成を図ることを市に要請するということでまとめたいと思うが、いかがか。

(異議なし)

(議長)

今後の推進会議は、状況を踏まえて開催するというようお願いしたい。

● 閉会

～別府室長あいさつ～